

十島村教育委員会だより 令和3年6月号

# 変わりがたカラ情報

写真：諏訪之瀬島小・中学校 お弁当給食

南北160km  
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会  
〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号



## 6月・・・七島集合学習

十島村教育長 有村孝一

十島村では、小学校の合同修学旅行と七島集合学習を1年おきに実施しています。今年度は、集合学習の年でした。当初6月1日から5日までを予定していましたが、接岸条件等のために、6月15日から19日までに延期して実施しました。

この事業の目的は、かねて同年代で学ぶ機会が少ないので、集団生活のルールなどを考えさせる機会とし、集団行動を通して協力することや思いやりの心を持つことの大切さを学ばせる。そして、同じ村で学ぶ友人として村への理解と感謝の気持ちを持たせることです。

実施場所は中之島です。火曜日の朝、口之島の子どもたちが先に中之島に行き、2校で交流をします。そして次の日の上り便で、諏訪之瀬島以南の子どもが集合します。7島合同は3日間可能となります。

まず教科の学習では、体育のボールゲーム、レクリエーション、音楽のリコーダー、鍵盤ハーモニカを使った学習など人数が多い方がより効果的な学習を取り入れました。また、防災学習やプログラミングなどの学習も取り入れ、大勢で学ぶ楽しさを味わわせることができました。

また、中之島の「人・物」などを活用した学習も行われ、子どもたちは、歴史民俗資料館を見学し村の歴史と文化に触れることができました。天文台では、そのスケールの大きさに驚かされました。トカラウマ牧場では、村が大切に保存している天然記念物を知ることができ、生まれたばかりの子馬の名前も付けました。さらに島で農業に従事している人たちの協力を得て、体験を通じた交流を行ったり、畜産について牧場見学と解説を聞いたりすることができました。

さらに、寝食を共にして調理活動や清掃活動をすることにより、協調性や自主性を培うことができ、子どもたちの一体感も増していきました。日頃は、TV会議による交流が主ですが、直接会って活動することの良さを感じたのではないかと思います。

村全体には、その日の出来事等をお知らせする防災無線による放送も行い、生の声でその様子を伝えることができました。見事なものでした。

この事業の実施に当たっては、中之島のたくさんの方々にお世話になりました。

特に食事の面では、食生活改善推進員の皆様にも全面的にお世話になりました。

また、港では工事に来ておられた業者の方に電光掲示板による歓迎と歓送の心温まるメッセージをいただきました。子どもたちの帰島時には、多数の地元の方々に見送りをいただきながらのお別れとなりました。

集合学習を終わってみて、子どもたちの発表への意欲、問いかけへの返事、食事の準備や片付けや掃除への取組など、態度が明らかに変わったことがわかりました。

これらのことを各島に帰ってからも実践して欲しいと思います。各島の皆さん、子どもたちをねぎらって、褒めてあげていただきたいと思っています。



## 「いじめ問題を考える週間」を終えて

十島村教育委員会では、いじめ防止対策推進法(平成25年法律第71号)をふまえ、いじめ防止等の取組を再構築し、いじめ防止等に向けた対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針として、十島村いじめ防止基本方針を定めています。

また、各学校では、学期の始めや終わりに、各学校で「いじめ問題を考える週間」を設置して、いじめは、どの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであるという認識の上で、指導に当たっています。すべての子どもは、かけがえのない存在であり、社会の宝です。子どもたちが健やかに成長していくことはいつの時代も社会全体の願いであり、豊かな未来の実現に向けてもっとも大切なことだと思います。子どもは、人と人とのかけがえのない中で、自己の特性や可能性を認識し、また他者の長所等を発見する中で、互いを認め合い、温かい人間関係の中で自己実現を目指してのびのびと生活できるわけです。

いじめはその健やかな成長の妨げでなく、将来に向けた希望を失わせるなど、深刻な影響を与えるものなのです。これからも、学校と家庭そして地域が協力し合って、子どもたちが安心して生活できる環境作りにご協力ください。



## 【新聞掲載作品】

友  
友だちはいつも近くにいる  
いつも一緒に笑う  
いつも一緒に遊ぶ  
いつも一緒に学ぶ  
いつも通りの生活  
みんながいれば  
笑顔になれる  
みんながいるから  
成長できる  
(宝島小六年 向井 彪悟)



子供のうた  
五月二十二日 南日本新聞掲載

## 十島村で学ぶ

口之島中学校 3年 隈本 空

### 「口之島に来て半年」

僕は、今年の11月に山海留学生として来ました。口之島に船で着いたとき、不安と緊張の気持ちでいっぱいでした。しかし島民の方々、先生方などが「よく来てくれたね。」と出迎えてくれて、みんなとなじめることができました。

口之島小中学校には、行事がたくさんあり充実した毎日を送っています。あっという間に半年がたちましたが、自分自身たくさん成長できたと思います。よく親から、「まわりの人への感謝の気持ちを忘れないで。」と言われていました。その時、僕の中で感謝できているからいいでしょ。」と書いていました。しかし、思うだけでなく言動で示さないと相手には伝わらないということを学びました。たとえ少しのことでも感謝して、行動で返せば協力していけるからです。それは島民一人一人が協力して暮らしている島だからこそ気がつくことができました。これから先、素直に感謝できる広い心をもっていきたいです。



【宝島小・中学校からのメッセージ】  
教諭 倉山 武文

宝島に赴任して3年目を迎えました。今年度は中学1・2年生の担任として、3名の生徒と過ごしています。校舎2階のベランダから見えるきれいな海には、いつ見ても心を動かされます。

宝島小・中学校では、総合的な学習の時間での落花生栽培や、一日遠足での魚釣り体験など、郷土の特色、宝島の良さを生かした教育が行われています。鹿児島県には、昔から「郷中教育」という言葉がありますが、これら行事の中で高学年が低学年に指導する姿を見て、まさにこのことだと感じました。互いに声をかけ、手を取り合いながら成長していく姿のために自分は何ができるだろう、「何をすればより助けになるだろう」、そう考えることが私の楽しみ、やりがいです。採用試験の面接で答えたときの思い、「子どもたちの成長に直接関わられる、教員という仕事に魅力を感じています。」これは今も変わりません。子どもたちの可能性を最大限に発揮させ、心身共に大きく成長させるために、これからも力を尽くしたいと思います。

### 『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

中学校籍である私にとって、小中併設校だからこそ出会える、小学校の先生方と共に働くことから学ぶことも多く、また、さまざまな考え方に触れることができている。出会いに感謝し、同じ教員として研鑽を積むことができればと思います。村教員とお会いするのを楽しみにしています。

## 令和3年5月2日 南日本新聞「若い目」掲載

「兄は 聖火ランナー」  
小宝島小学校四年 岩下 明日香  
わたしの兄は四月二十七日、聖火リレーのランナーとして鹿児島市を走りました。兄はだじゃれ好きで、いつもだじゃれを教えてくださいました。笑顔で明るい兄がわたしは大好きです。兄は一年前、小宝島中学校を卒業して「島立ち」し、鹿児島市内の高校に進学しました。人の少ない小宝島をもっとみんなに知ってほしいという思いから、聖火ランナーに応募しようというので、笑顔で手をふっていました。えん道からは、おうえんするはく手が聞こえてきました。わたしもテレビをとおして「がんばれ」とおうえんしました。いしにつまづいて転ばないかと、心配しましたが、ぶじに走り切ることができ、ほっとしました。次のランナーに聖火の火をともしるとき、トーチでピースの形をつくり、わらってピースサインをしていました。最後まで笑顔で走った兄も他のランナーもすごいと思いました。



## 令和3年6月18日 南日本新聞「ひろば」掲載

「スマッシュ成功」  
口之島小五年 児浦 彪威  
僕は同年の友達や六年生、中学生の上級生とバトミントンをする時、なかなか勝つことができません。だからスマッシュを上手に打ちたいと思いました。五年生の友達はスマッシュは打てないけど、シャトルを打った後、すぐにもとの位置にもどって体せいを整えます。だから打ったシャトルはすぐに返されます。六年生はスマッシュを打てるので、ぼくがシャトルを高く上げたらスマッシュを打ってきます。中学生はネットぎりぎりに打ってくるので打ち返せなかつたり、スマッシュを打ってきたりするので、どんなシャトルも打ち返してきます。僕も負けないようにスマッシュを打ちますが、ネットにかかってしまします。先生が「もっと高いところをうったら」とアドバイスしてくれました。シャトルが高いところにある時に打ってみたいから、見事にスマッシュが決まりました。とても気持ちよくて、うれしくなりました。

